

大学都市神戸産官学プラットフォーム
2025 年度 事業計画

2025 年 7 月 31 日改訂

目次

① 背景・目的	P3
② 構成組織	P5
③ 産官学連携交流拠点	P8
④ プロジェクト	P12
1. 大学カリキュラムとインターンシップ・就職活動との接続	P14
2. 大学の若手研究者ショートプレゼン&交流会～KOBÉ アカデミックトーク～	P16
3. 県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期インターンシッププロジェクト	P17
4. 大学都市 KOBÉ SDGs Challenge Project	P18
5. 企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	P20
6. 大学発イノベーションファンド神戸	P22
7. 高校生のための進路探求プロジェクト	P23
8. 産官学連携による神戸の森林資源を中心とする里山価値の創出、向上プロジェクト ―地域資源の利活用と環境教育・人材育成を目指して―	P25
9. 神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	P26
10. リカレント（リ・スキリング）プロジェクト	P28
11. 神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	P30
⑤ 収支予算	P31

①背景・目的

神戸市には多彩な高等教育と研究を実践し、歴史と伝統ある大学が数多く立地し、約7万人の大学生が学ぶ、全国屈指の大学都市であり、豊富で個性豊かな教育資源に加え、大学を通じて多くの若者が集まっていることが地域活性化の原動力となっており、優位性でもある。

他方で、文部科学省の中央教育審議会大学分科会の推計では、18歳人口の減少により、2025年から2040年にかけて大学入学者数は約18万人（約3割）が消失（出典：文部科学省 中央教育審議会大学分科会（第181回）高等教育の在り方に関する特別部会（第15回）合同会議配付資料）するとされている。今後、少子化の急激な進行による大学志願者の減少と他府県への進学者の流出加速などが見込まれるなか、大学都市神戸として、産官学が一体となって、多様な地域課題解決につながる大学の機能を強化し、市内外からの市内大学への進学する優秀な人材の確保と卒業時の地元定着率の向上、さらには人口減少が進む中で、新たな価値を生み出す高度人材を育成していくことが重要である。

こうした状況へ対応していくため、産官学共創による課題解決に向けた連携協力体制の強化に向けて、市内の大学等、産業界、神戸市が参画し、一般社団法人「大学都市神戸産官学プラットフォーム」を2023年11月10日に設立し、「神戸の将来を支える人材の獲得」「神戸の未来を牽引する人材育成・定着」「神戸経済への直接的な貢献」の3つの取組みの視点をもとに、産官学連携による共創強化を通じたさまざまなプロジェクトを展開することとした。本プラットフォームは文科省の提唱する「地域連携プラットフォーム」を神戸市地域において具現化するものでもある。

あわせて、交通利便性が高い三宮・センタープラザ9階に、産官学連携交流拠点「KOBE Co CREATION CENTER」を開設し、共創の取り組みの実践や発信の場、また学生や大学研究者、企業等の交流を推進していく。

【2025年度に向けて】

2040年を見据えた文部科学省 中央教育審議会答申（2025年2月21日）「我が国の『知の総和』向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～」（以下「答申」という）の理念に基づき、急速な少子化やグローバル化等の社会情勢の変化に対応するため、神戸市に立地する大学の優位性を活かしながら、「神戸の将来を支える人材の獲得」「神戸の未来を牽引する人材育成・定着」「神戸経済への直接的な貢献」の3つの視点をもとに、産官学連携による取組みを強化する。

さらに、地域連携プラットフォームの仕組みを発展させ、答申が提唱する「地域構想推進プラットフォーム（仮称）」の構想を踏まえ、神戸市における地域の人材育成のあり方について関係者と継続的に議論を行う。

大学が集積する神戸の優位性を活かし、産官学連携の基盤整備・推進を通じて、人口減少に伴う多様な地域課題解決を目指す大学都市神戸産官学プラットフォームの2年目を踏まえ、大学都市神戸産官学プラットフォームが、大学都市神戸の優位性を活かし、参画大学を基点に企業、市の多様なリソースの結集による産官学共創による課題解決を実践できる持続可能な基盤として機能することを目指し、市とともに、神戸の成長をけん引する人材の獲得、育成、定着といった視点を踏まえた効果的なプロジェクトを産官学連携による推進していく。

また、参画大学が持つ教育資源やリソースを結集することで、地域全体の教育水準の向上を図るとともに、産業界とより一層の対話と連携を深め、地域経済における具体的な人材需要を的確に捉え、そのニーズを踏まえた実践的なプロジェクト（大学教育とキャリア支援の連携強化、研究者交流、留学生支援、SDGs 推進、リカレント教育など）の展開を通じて、さらに大学間連携を強化していく。

②構成組織

[会員 ※2025 年 3 月 19 日時点]

●大学・高専等高等教育機関を設置する法人会員（12）

神戸大学	神戸国際大学
神戸学院大学	神戸芸術工科大学
甲南大学	神戸常盤大学
神戸市外国語大学	神戸松蔭大学
神戸市立工業高等専門学校	関西国際大学
兵庫県立大学	神戸市看護大学

●特別会員（5）

損害保険ジャパン(株)	和田興産(株)
(福)報恩会	(株)神戸製鋼所
(株)G-7 ホールディングス	—

●企業会員（37）

西日本電信電話(株)	(株)喜創産業	(福)慶明会
(株)学生情報センター	(福)弘陵福祉会	(福)みかり会
(株)神戸新聞事業社	(福)神戸婦人同協会	(福)すみれ会
アスタッフ(株)	(福)恩賜財団共生会支部兵庫県共生会	(福)弘英会
(株)ラジオ関西	(福)成晃会	(福)大慈厚生事業会
I & H(株)	(福)神港園	(医)倫生会
剣菱酒造(株)	(株)御所坊	大和リース(株)
双日(株)	(株)KDS	積水ハウス GM パートナーズ(株)
住友生命保険(相)	(株)ホテルニューアワジ	(株)ブレックス
(株)神戸デジタル・ラボ	(株)モリサワ	—
(有)エグゼ	(株)ジャーニーゾーン	—
(株)みなと銀行	(株)COSY	—
兵庫ダイハツ販売(株)	(株)オゾネ	—
兵庫六甲農業協同組合	(福)まなの会	—

●エントリー会員（35）

(株)神戸新聞社	菊正宗酒造(株)	(株)F・O・インターナショナル
(株)三井住友銀行	神戸海事検定(株)	宮野医療器(株)
三井住友信託銀行(株)	(株)伍魚福	(株)コベルコ E & M
三菱 UFJ 銀行(株)	SMBC コンシューマーファイナンス(株)	(株)コベルコ科研
神戸中央青果(株)	NPO 法人神戸デザイン協会	シン・エナジー(株)
金井重要工業(株)	オリバーソース(株)	(株)パソナグループ
(株)ナガサワ文具センター	BE KOBE ミライ PROJECT	(同)アトエプロダクション
(株)W	(公財)大吉財団	－
(株)日本政策金融公庫	(株)ベベ	－
兵庫トヨタ自動車(株)	(株)岡崎製作所	－
神果神戸青果(株)	旭光電機(株)	－
(株)合食	(株)バリュープランニング	－
中村住建	(株)日本ビジネスデータプロセッシングセンター	－
(株)シマブンコーポレーション	(株)海昇	－

●団体会員（4）

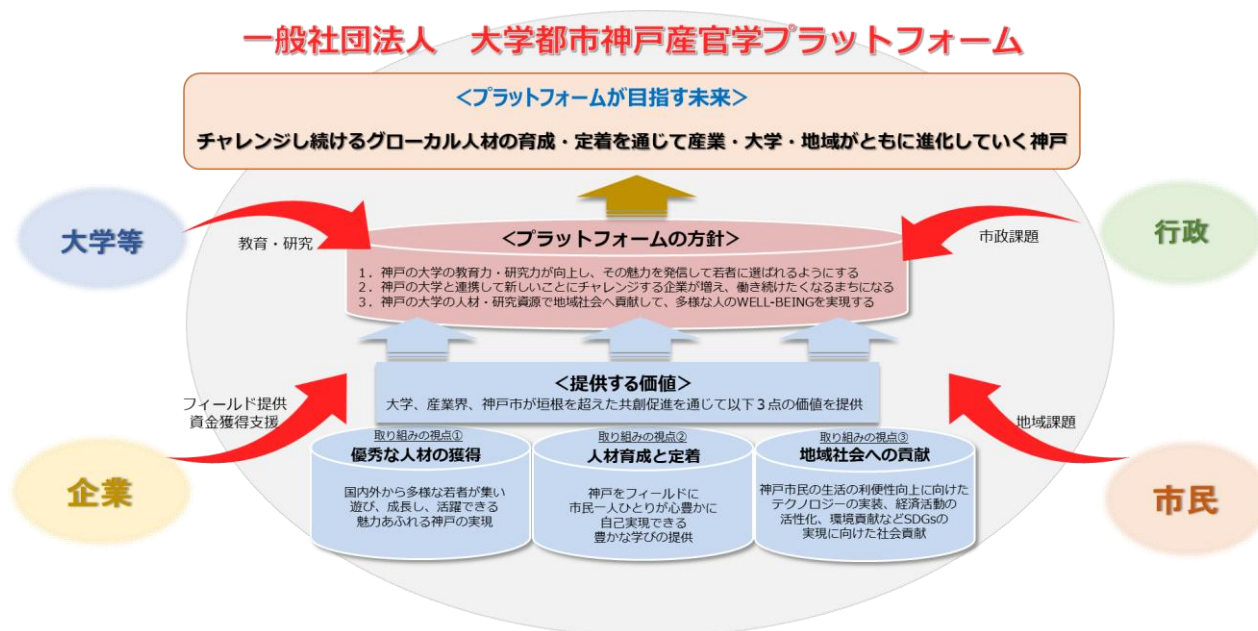
(一社) 兵庫県中小企業家同友会	(一社)神戸市老人福祉施設連盟
(公社) 兵庫工業会	神戸商工会議所

●行政会員（1）

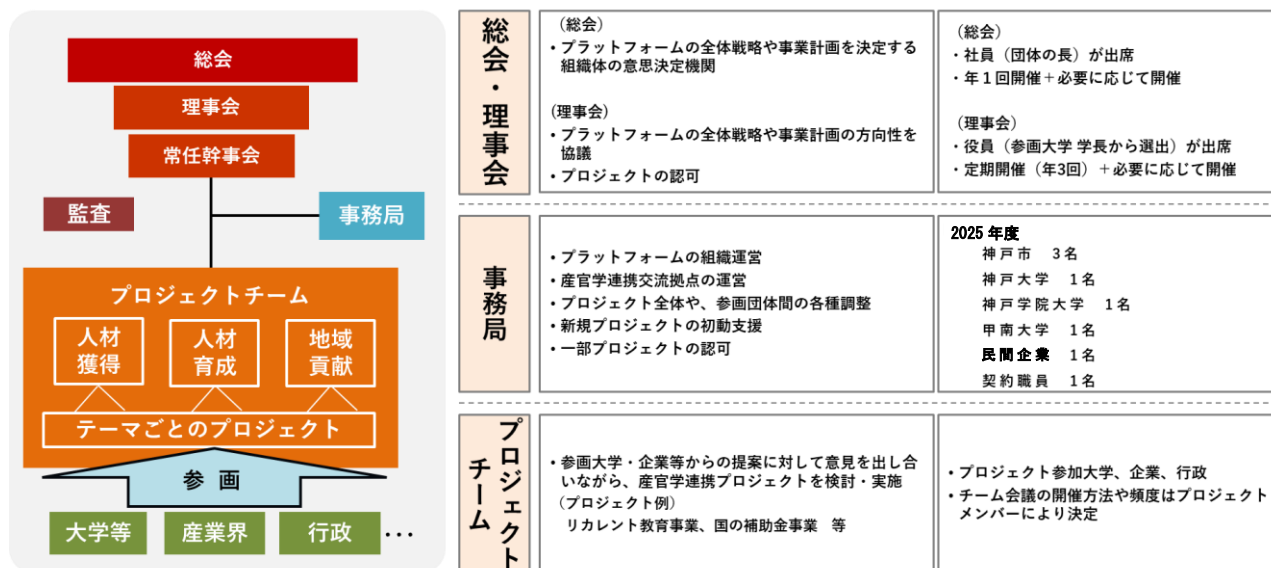
神戸市

	分担金（年額）	法人社員	プロジェクト	産官学連携交流拠点
企業会員	10万円 (1口)	×	・その意思に基づきプラットフォームの活動を推進するもので、その目的達成に向けて貢献できる企業 ・プロジェクトへの参画が可能 ・プロジェクトの企画提案が可能	・交流・コワーキングスペースの利用料無料 ・講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引（20%）
特別会員	10万円×5口 以上 若しくは職員派遣	○	・その意思に基づきプラットフォームを構成し、その目的達成に向けて貢献する企業 ・プロジェクトへの参画が可能 ・プロジェクトの企画提案が可能	・会議室、交流・コワーキングスペースの利用料無料 ・講義室、拠点一体利用の無料利用枠（年5回） ・講義室、拠点一体利用の利用料割引（50%）
エントリー会員	0円	×	・プラットフォームから定期的な情報提供（将来的に企業会員・特別会員としての参画）	・特典なし
団体会員	10万円 (1口)	○	(経済団体や教育団体等が対象) ・団体（「団体地意として申し出があった場合」の意） プロジェクトへの参画が可能 プロジェクトの企画提案が可能 ・団体の傘下個別企業 常任幹事会の協議を経てプロジェクトへの参画が可能（プロジェクトの企画提案は不可）	① 団体（「団体地意として申し出があった場合」の意） ・交流・コワーキングスペースの利用料無料 ・講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引（20%） ② 団体の傘下個別企業 ・交流・コワーキングスペースの利用料無料 ・講義室、会議室、拠点一体利用の利用料割引（5%）

【全体像】



【組織図】



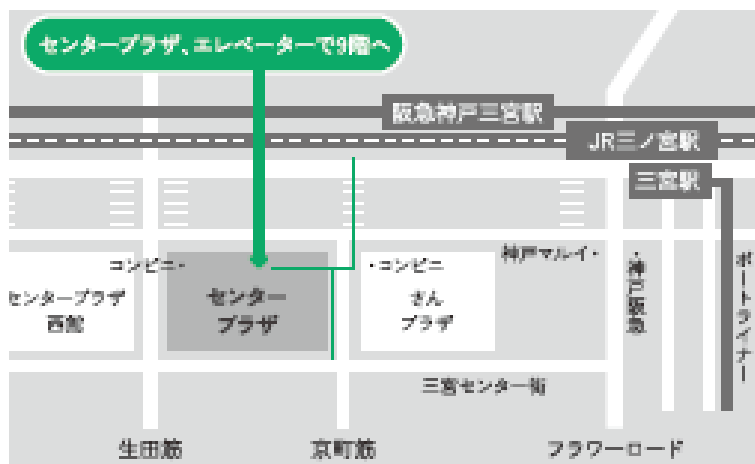
③産官学連携交流拠点

[概要]

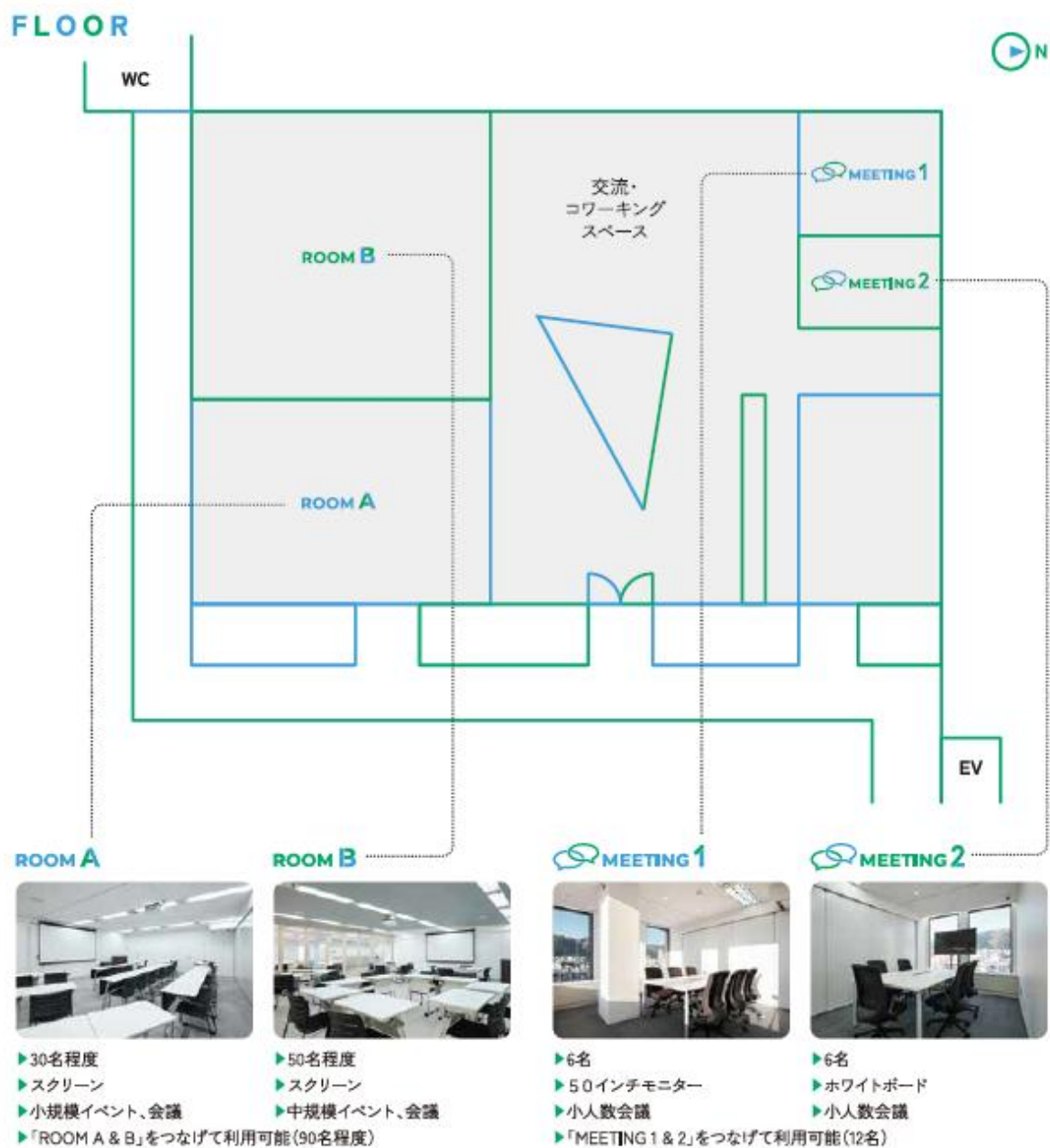
組織名称	KOBE Co CREATION CENTER 
所在地	兵庫県神戸市中央区三宮町1丁目9番1号 センタープラザ9階の一部
床面積	437.4 m ² （9階部分）
施設概要	ROOM A・B、MEETING 1・2、交流・コワーキングスペース
開館時間	平日 10：00～21：00（月曜日を除く） 土日祝 10：00～18：00 ※月曜日が祝日・休日の場合は土日祝開館時間（10：00～18：00）
休館日	毎週月曜日／年末年始（12月29日～1月3日）
駐車場	なし

[アクセス]

JR三ノ宮駅、阪急神戸三宮駅、地下鉄三宮駅、ポートライナー三宮駅から徒歩5分



[フロア図]



交流・コワーキングスペース



【拠点の適切かつ更なる利用促進】

2024 年 4 月に拠点の本格的運用がスタートし、参画大学教員を中心に関係者の認知度が上がる中で、徐々に稼働率も向上し、2025 年 2 月末時点ではセミナー向けの ROOM スペース、会議・打ち合わせ用の MEETING スペースの月平均稼働率 77.8%を達成した。利用用途も参画大学の教員による PBL 型のゼミ講義から、参画大学等が主催するシンポジウム、参画大学等の研究者と企業との連携によるセミナーなど産学連携の催しにも活用されている。また、交流・コワーキングスペースに関しては、市内に在住、在学の学生を対象にした学生のコミュニティデジタルサイト「BE KOBE 学生ナビ」との連携を通じた広報効果もあり、夏休みや冬休み、土日を中心に、個人利用だけでなく、部活やサークルなど多様な学生コミュニティの利用にも活用され、所属大学等の垣根を超えた学生間交流の場ともなっている。

2025 年度は、2024 年度の課題などを踏まえた改善点を含め、改めて拠点の適正な利用ルールを参画大学等の関係者に再確認、周知するとともに、受付部門での調整機能も強化し、出来るだけ多くの利用を促進していく。また、参画大学等の ROOM スペース利用によるイベント等への来場者へのプラットフォームの取組みの広報協力などにも取り組んでいく。さらに、参画大学ごとの利用実績情報の共有化も図っていく。

次に、参画大学の学生を中心に、交流・コワーキングスペースの学生利用をさらに拡充していくため、利用学生の声も踏まえながら、学生の認知度や利便性を高める取組みを企画、実施し、学生のコミュニティ拠点としての機能を充実していく。加えて、参画団体を中心に、学生のキャリア支援などを含む企業と学生との多様な交流の機会の創出にも取り組んでいく。

[2025 年度目標]

- ・月平均稼働率（ROOM・MEETING） 70%（2024 年 4 月～2025 年 3 月実績 58.8%）
- ・交流・コワーキングスペース利用の年間利用者数（延べ数） 3,500 名（2024 年 4 月～2025 年 3 月実績 3,282 名）

[参考：参画大学等別の ROOM・MEETING 利用回数（延べ数） ※2024 年 4 月～2025 年 3 月]

神戸大学	甲南大学	兵庫県立大学	神戸学院大学	関西国際大学	神戸市立工業高等専門学校
305	94	90	82	62	33
神戸市外国語大学	神戸市看護大学	神戸松蔭女子学院大学	神戸常盤大学	神戸国際大学	神戸芸術工科大学
22	12	10	8	7	1

【企業の参画促進に向けて】

参画大学等のネットワークを活用した企業側へのアプローチ活動やインターンシップ・就業体験といったプロジェクトなど産官学連携のプロジェクトの進捗とともに、本プラットフォームへの企業参画は 2023 年 11 月時点では約 20 社から 2025 年 2 月末時点では約 80 社に拡大している。

他方で、(会費) 負担の無いエントリー会員の増加を踏まえ、エントリー会員から企業会員や特別会員への移行を促進するため、プロジェクトへの参加など企業会員の活動内容で得られるメリットの丁寧な広報活動やエントリー会員から企業会員への移行のインセンティブとなるような特典の企画、実施に取り組んでいく。

また、神戸市の「企業版ふるさと納税制度」や「未来の神戸づくりに向けた大学等応援制度」を活

用した会員区分（パートナー会員）を創設し、新たな企業参画の方法を提供、運営財源を確保しつつ、企業が参画大学等とともに多様な産官学連携プロジェクトを企画、展開可能な取組みを推進していく。

④プロジェクト

本プラットフォームは、「チャレンジし続けるグローバル人材の育成・定着を通じて産業・大学・地域がともに進化していく神戸」を目標に掲げ、「優秀な人材の獲得」「人材育成と定着」「地域社会への貢献」の3方針に資する産官学連携プロジェクトを参画団体とともに展開していく。

本プラットフォームが本格的に始動した2024年度は、参画団体からの提案に基づく16プロジェクトを展開してきたが、2024年9月に、常任幹事や経済団体等によるプロジェクトの中間評価を実施し、プラットフォームの3方針への貢献の実効性が期待できるプロジェクトの選択と集中を行った結果、2024年10月2日開催の理事会において、6プロジェクト（下記表のNo.1～6）に関しては、改善点を踏まえながら、2025年度も継続することとなった。

また、参画団体から新たに提案された2つのプロジェクトに関して、常任幹事、経済団体等の評価、審査を実施し、一定の評価を得られたため、採択の方向で調整を進め、2025年3月19日開催の理事会の承認のもと、2025年度は、上記の2024年度からの継続の6プロジェクトとともに8プロジェクトを展開していく。

[2025年度に実施予定のプロジェクト]

No.	プロジェクト名	優秀な 人材の獲得	人材育成と 定着	地域社会へ の貢献
1	大学カリキュラムとインターンシップ・就職活動との接続		○	
2	大学の若手研究者ショートプレゼン&交流会 ～KOBÉ アカデミックトーク～			○
3	県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期インターン シッププロジェクト		○	
4	大学都市 KOBÉ SDGs Challenge Project			○
5	企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災			○
6	大学発イノベーションファンド神戸			○
7	高校生のための進路探求プロジェクト	○	○	○
8	産官学連携による神戸の森林資源を中心とする里山価値の創 出、向上プロジェクト		○	○

さらに、「優秀な人材の獲得」「人材育成と定着」「地域社会への貢献」の3方針、神戸市の抱える市政課題や企業等のニーズを踏まえ、国費や寄附金等の特定財源を活用し、参画大学のリソースを活用した産官学連携によるリカレント教育プロジェクトなど3つのプロジェクトの取り組みも展開していく。

[2025年度に特定財源により実施が見込まれるプロジェクト] ※特定財源の獲得ができた場合に実施

No.	プロジェクト名	優秀な 人材の獲得	人材育成と 定着	地域社会へ の貢献
9	神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	○	○	
10	リカレント教育プロジェクト		○	
11	神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	○		○

1. 大学カリキュラムとインターンシップ・就職活動との接続	
概要	神戸市では 2010 年をピークに人口減少傾向が続いており、特に労働力の中核を担う 15 歳から 64 歳の生産年齢人口が減少している。また、2024 年度の市調査では、市内の大学の学生の市内企業への就職率は 20%を下回り、多くの学生が卒業を機に市外に流出しており、昨今の採用における「売り手市場」の中で、とりわけ市内の中小企業の採用難、人手不足が深刻化している。 また、学生の就職活動時の情報不足による大企業志向が中小企業の人材不足に拍車をかけていくことが見込まれる。 プラットフォームでは参画大学、企業等のそれぞれのネットワークを効果的に活用し、専任のコーディネーターを配置、学生のキャリア相談や企業等とのマッチング、インターンシップ中の学生フォローや企業の受入体制支援の実施を通じて、企業と学生との相互理解を深める機会を創出し、学生の市内企業への就職・定着を推進する。
2025 年度 実施内容	2024 年度で得られた課題や実績を活かすため、2024 年度と同様、関西では定評あるコーディネーター(NPO 法人 JAE)とともに、企業と学生のマッチングにつながるインターンシッププログラムを企画、策定、実施する。 具体的には、企業が抱える課題解決に参加学生が取り組むジョブ型などの新たな類型も加え、規模も拡大し、基本的には以下の①から④のインターンシップ、就業体験に取り組んでいく。 また、参画大学が取り組んでいる企業での就業体験学修プログラム（COOP 教育等）との連携を図っていくとともに、随時、参画大学や企業ニーズを踏まえ、地元就職のきっかけとなるような取組み（例えば交流の場など）も実施していく。 1. 単位認定型（採用直結型）インターンシップ 概要：参画大学の単位認定制度と連動させ、採用優遇措置を適用する。 タイプ 3。 期間：夏季休暇中の 5 日間 目標：企業 5 社、学生 10 名 2. ペイド型（報酬型）就業体験 概要：最低賃金以上の報酬をもらいながら社員同様の仕事に中長期間従事する。 期間：随時 3-6 か月 目標：企業 10 社、学生 20 名 3. ジョブ型就業体験 概要：市内企業の抱える課題解決のため、学生のより専門的な知識を活かした課題解決型のペイド型就業体験を実施する。2025 年度は DX・デジタル関連の課題を対象とする。

	期間：夏季休暇 1-2 か月 目標：企業 5 社、学生 10 名 4. 複数企業訪問・魅力発信型就業体験 概要：複数の企業(3 社)を訪問、業務体験や経営者インタビューを行い、企業の魅力を発見・発信する。 期間：夏季休暇・春季休暇の 5 日間(事前研修 1 日 + 企業訪問 3 日 + 事後研修 1 日) 目標：企業 30 社、学生 60 名
2025 年度 KPI	アウトプット
	各プログラム合計 ・参画企業 50 社以上 ・参画学生述べ 100 名以上
	アウトカム
	・学生のキャリア観、社会人基礎力の醸成 ・市内企業就職率の向上 ・企業満足度の向上、企業会員の増加
プロジェクトチーム	神戸市（リーダー）、神戸大学、神戸学院大学、甲南大学、神戸国際大学、関西国際大学、神戸市外国語大学、株式会社ホテルニューアワジ

2. 大学の若手研究者ショートプレゼン&交流会～KOBÉ アカデミックトーク～	
概要	参画大学に属する若手を中心とした研究者による、地域社会向けの対話型プレゼンテーションイベントを実施する。 研究者が自らの研究内容を地域の事業者、市民等に向けて、わかりやすく発表し、質疑応答での対話を通じて、大学研究への市民理解と関心を深め、参画大学と地域社会との相互理解を促進する。また、企業との共同研究の誘発など地域社会での研究者の活躍、貢献につながるようなネットワークづくりを構築していく。
2025 年度 実施内容	1. 拠点を活用したイベントの定期的な開催とともに、なるべく多くの参画大学の様々な研究専攻の研究者の発表機会を創出していく。 2. 参加者アンケートやヒアリングの実施を通じ、研究者と参加者の交流度合い、イベント開催後の教員と参加者との結びつきなどイベントの成果を把握する。 3. 2を踏まえ、効果的な研究者と参加者等とのネットワークづくりに向けた効果的な取組みを検討する。 4. SNS や You Tube などを活用し、イベントの認知度の向上を図る。また、テーマごとに、関心の高い多様な参加層の増加につなげるため、訴求効果の高いプロジェクト特設ページの改修や地域メディア（例えば動画配信プラットフォーム）等との連携を図っていく。 5. 発表した研究者のネットワークづくりに向けた交流会イベント等も企画、実施していく。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・年間参加者数（延べ数）240 名以上 （30 名×8 回開催） ・2025 年度からの新規参加者数 100 名以上 ・プロジェクト特設ページの年間アクセス数 5,000 回以上
	アウトカム
	・大学研究への市民理解と関心を深め、大学と地域社会との相互理解、接点づくりを促進 ・研究者のプレゼンテーション能力向上と、研究内容が持つ社会的価値の明確化 ・市民や事業者が、大学での最先端研究に触れる機会を提供し、新たなアイデアの創出や研究者との共創促進
プロジェクトチーム	神戸大学（リーダー）、神戸学院大学、甲南大学

3. 県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期インターンシッププロジェクト	
概要	日本学生支援機構（JASSO）が実施した「令和3年度私費外国人留学生生活実態調査」によれば、留学生の留学目的のうち、「日本で働く、もしくは日本企業に就職する」が最多の48.3%、「就職に必要な技能や能力を高める」が37.1%を占める（全体では3番目に多い）など、留学生の多くが日本での就業経験・就職に興味をもっている。 参加大学、企業等が協力し、留学生向けの中小企業就職支援・中長期インターンシップを充実することで、「兵庫・神戸では就業経験を得られ、就職もできる」というレピュテーションを生み出し、優秀な外国人留学生の獲得につなげることを目指す。また、将来的に、文部科学省が公募する「留学生就職促進プログラム」への申請も目指す。
2025 年度 実施内容	1. 企業の留学生求人ニーズ、課題把握に向けたヒアリングや検討会等の実施 2. 受入企業と留学生とのマッチング会の開催（1回） 3. ビジネス日本語やマナー講座（インターン内定者向け、G-Navi 事業との連携） 4. 中長期就業体験プログラムの実施 5. 留学生が早めに市内企業の認知度、関心度を高めるため、例えば、低年次生向け「神戸企業見学ツアー（仮称）」の企画、実施
2025 年度 KPI	アウトプット
	・神戸企業見学ツアー（仮称）参加者数 20 名以上 ・マッチング会参加者数 20 名以上
	アウトカム
	・中長期就業体験プログラム参加者数 20 名以上 ・参加者のうち市内企業就職者 2 名以上（中長期目標） ・中長期就業体験プログラム参加者数 50 名以上 ・参加者のうち市内企業就職者 10 名以上
プロジェクトチーム	甲南大学（リーダー）、神戸大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、神戸常盤大学、関西国際大学、損保ジャパン株式会社、株式会社ホテルニューアワジ

4. 大学都市 KOBE SDGs Challenge Project	
概要	神戸市は「SDGs 貢献都市神戸」を掲げ、SDGs 達成に向けた取組みを推進している。また、市内の各大学においても、SDGs に関する取組みをそれぞれ推進している中で、情報を集約し、プラットフォームを活用し、一元的な発信や推進支援を行う。 具体的には、プラットフォームを通じ、社会実装に向けた参画大学等の取組みへのクラウドファンディング支援や企業とのマッチング等の支援体制を構築することで、SDGs 達成に向けた参画団体や市民の更なる取組みを促し、SDGs 貢献都市神戸の実現の貢献を目指す。
2025 年度 実施内容	1. SDGs プロジェクト特設ページの充実 参画団体が取組んでいる SDGs（国連の持続可能な開発目標）の取組みを集約し、一元的に発信するプロジェクト特設ページ（2024 年度開設）につき、より多くの参画団体の利用を促進するなど充実化を図っていく。 2. SDGs チャレンジ支援クラウドファンディングの活用 参画大学等の学生や教職員が取り組む SDGs の取組みを対象に、クラウドファンディングを活用した支援及び情報発信を継続して実施し、2024 年度の実績を活用した広報などより多くの参画大学等の取組みでの利用を促す。 また、クラウドファンディング後の SDGs チャレンジに対する継続支援を募る仕組みも検討していく。 3. 市民参加型 SDGs 体験イベント 2024 年度と同様、「大学都市 KOBE SDGs マルシェ-SDGs チャレンジは楽しい-」と題して 2025 年 12 月、甲南大学の岡本キャンパス iCommons での開催を企画。参画団体の多様な SDGs の取組みを集結させ、各取組みの展示ブースで参加者と楽しみながら共有する場として開催を企画。2025 年度はブース出展に加え、高大接続や参画団体が共同で実施する PBL の成果報告など、参画団体の多様な産官学連携の取り組み等も発信することを目指す。 4. SDGs をテーマに産官学連携による学生の学びをひろげるサブプロジェクトの企画、実施 参画大学等の学生と参画企業等が連携する SDGs をテーマにしたサブプロジェクトの組成を検討し、上記 1～3 のコンテンツの強化を図る。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・クラウドファンディング年間実施数 5 件以上 ・プロジェクト特設ページの年間アクセス数 3,000 回以上 ・イベント参加者数延べ 500 名以上 ※2024 年度実績をもとに検討
	アウトカム

	・参画団体における新たな産官学連携の実現と共創プロジェクトの創出 ・会員企業価値の発信、参画大学等の学生満足度、志願者の志願度向上、市内学生及び市民へのプラットフォームの認知拡大
プロジェクトチーム	甲南大学（リーダー）、神戸学院大学、神戸大学、株式会社ホテルニューアワジ

5. 企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	
概要	阪神・淡路大震災から 30 年を迎える中で、南海トラフ巨大地震など未曾有の自然災害に備えて、企業、大学、地域団体、住民がとともに、次の 30 年に必要な取組みと地域防災の未来を見据え、阪神・淡路大震災での経験や近年発生した自然災害対応の経験や取組みを共有し、広域的かつ多層的な地域防災のネットワークの構築を目指す。
2025 年度 実施内容	【継続】 1. 大学、行政、住民、企業の連携に関する地域防災セミナーを開催 地域防災力の向上を目指し、大学と地域、住民が連携した防災の先進的な取組みを学ぶセミナーを開催。 [テーマ (例)] ・地域団体や被災地の大学の取り 等 2. 参画大学等や参画企業、協力団体との連携による取組み [取組み (例)] ・ ALL HAT (HAT 神戸) 防災訓練参加、人と防災未来センター等への出展協力 ・ 参画団体の防災の取組みの一元的な発信 【新規】 3. 企業による防災等の取組みをテーマとしたセミナー等の開催 企業や団体が取組む防災の取組みや企業の BCP (事業継続計画)、被災地域の復旧に向けた後方支援の取組み等をテーマとしたセミナー開催、アンケートの実施 4. 防災等に取り組む学生団体などの交流、ネットワークづくり [取組み (例)] ・ 大学間で防災テーマの展示、訓練等を通じた交流
2025 年度 KPI	アウトプット
	・ セミナー開催回数 6 回以上 (前年度 3 回) ・ セミナー年間参加者数 (延べ数) 300 名以上 ・ プロジェクトの取組みへの新規参加数 企業 2 件以上、大学 1 件以上、行政 1 件以上、地域団体・住民団体 1 件以上、学生 50 名以上
	アウトカム
	・ 神戸市に立地する大学が協働で事業を企画、実施することで紐帯と信頼を高め、緊急時に対応できる体制を構築 ・ 大学と企業が防災・減災を柱に連携を深めて、災害などの緊急時に役立つ強みと弱みを相互に補うための仕組みづくり ・ 事業の実施を通じて、企業、大学、行政、住民が互いの信頼関係を構築し、プラットフォームモデルを構築

プロジェクトチーム	神戸大学（リーダー）、神戸学院大学、兵庫県立大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、甲南大学、関西国際大学、神戸常盤大学、大和リース株式会社、双日株式会社
-----------	---

6. 大学発イノベーションファンド神戸	
概要	参画大学等の多様な研究活動等の認知度を高めるとともに、社会からの支援を通じて、さらに研究活動等を活性化し、その成果を地域社会へ還元するエコシステムの形成につなげる。
2025 年度 実施内容	2024 年度は、社会からの支援の枠組みの検討を重ねた結果、神戸市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング（ガバメントクラウドファンディング）を活用していくこととなり、試行的に、参画大学から申請を募った結果、2 大学から 6 件の研究活動等の申請を受けた。当該申請につき、神戸市で審査し、採択する。 2025 年度は、2024 年度に採択されたプロジェクトにつき、神戸市のふるさと納税サイトへの掲載とともに、WEB のみならず、対象の研究活動を広く広報するためのイベント等も実施予定 当該実績結果の検証を踏まえ、ガバメントクラウドファンディングの活用も含め、地域貢献にもつながる大学の研究活動の支援のあり方に関して、さらに検討を進める。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・ガバメントクラウドファンディングを実施する研究 5 件以上 ・寄附金目標額 12,500,000 円以上
	アウトカム
	・ファンドを活用した大学と地域の双方向によるイノベーションの促進
プロジェクトチーム	神戸大学（リーダー）、神戸学院大学、兵庫県立大学、（株）学生情報センター

7. 高校生のための進路探求プロジェクト	
概要	市内の高校に通学する高校生（１年生中心）が、主体的に進路選択が行えるよう、参画大学が高校や企業等と連携し、必要な情報や判断材料を提供する。産官学連携により、市内の高校生の進路選択に関する悩みを解決することで、神戸の地域社会を担う人材育成に貢献する。また、市内の高校における大学都市神戸の存在感を高めつつ、優秀な人材の獲得と定着につながるよう、大学や企業の情報も伝える。
2025 年度 実施内容	1. 高校生の進路選択に関する現状調査（ニーズや課題等の把握） ①高校教員・高校生・教育委員会等への調査 ・高校生へのアンケート ・高校教員及び教育委員会へのヒアリング ②参画大学への調査 ・大学生へのアンケート ・学部・学科、就職等に関する公開情報の収集 ③事例調査 ・全国の自治体や大学での取り組み事例 ・大学フェア等を実施している専門業者の取り組み事例 2. 調査分析及び施策（プロトタイプ）の策定 ①市内の高校や教育委員会との意見交換会 ②参画団体（希望団体のみ）との打合せ 3. 施策（プロトタイプ）の試行的な実施 ※施策は1，2を踏まえて企画する <施策の例> ・大学での学びを紹介する模擬授業 ・課題解決型のワークショップ（学部毎にテーマを設定） ・教員、在学生、卒業生等による相談会 ・全学部の学びを横断的に体験し、自身で振り返るイベント 等 4. 2026 年度施策に向けた検討 ①施策（プロトタイプ）の結果分析 ②イベント等の本格実施に向けた施策検討 WG ・開催時期、訴求方法、企業との連携方法、告知方法
2025 年度 KPI	アウトプット
	・調査高校数：6 校以上（市立 2 校、県立 2 校、私立 2 校） ・高校生のアンケート回答数：1,000 件以上 ・施策の実施：1 件以上
	アウトカム
	・調査対象高校生の進路選択に関する現状の把握

プロジェクトチーム	神戸学院大学（リーダー）、神戸常盤大学、関西国際大学
-----------	----------------------------

8. 産官学連携による神戸の森林資源を中心とする里山価値の創出、向上プロジェクト ー地域資源の利活用と環境教育・人材育成を目指してー	
概要	本プロジェクトは六甲山系の森林資源を活かしながら地域との新たなつながりを生み出すとともに、次世代の森林空間価値創造の担い手を育てること及び里山資源の価値向上を目指す。 既存産業にとらわれない新しいつながりを構築し、これまで手間や価格の面から敬遠されてきた木材が①製材され消費者に届くまでの仕組みづくり、②都市近郊の多様な動植物の保存や保全を学ぶ場として、大学生・大学院生向けの教育プログラムを開発し、農学と芸術の視点から、環境保全、地域資源活用、デザイン思考を融合した新たな森林活用モデルを提案できる人材の育成を目指す。公開講座を実施しながら、地域住民、市・県職員なども参加可能な学びの場を創出。
2025 年度 実施内容	次世代の里山空間価値を創造する担い手の育成（神戸の大学ならではの教育プログラム開発）、資源を活かした地域との新たなつながりの創出、産学連携による商品開発などを展開。 1. 森林資源や里山に関するリテラシー教育と専門人材育成 参画大学の農学、芸術工学等の分野から森林や樹木、デザイン等を学べる講義を組み合わせ、参画大学等の学生を中心とした公開講座を企画 2. 里山価値への理解促進と教育普及（木育） 参画大学等の大学生・大学院生が企画等に関わりながら、地域住民や小学生等を対象に、木工ワークショップや体験型イベントを開催。 3. 産官学連携による商品サンプルの開発（2026 年度以降に実施予定） 木工に関わる職人やデザイナー向けに、市内で入手できる 環境整備材の見本帳を作成。整備材を使った製品案の開発。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・ 専門家を招聘しオムニバス講座開催、合計 5 回以上 ・ ワークショップの開催回数、合計 4 回以上 ・ 講座及びワークショップへの延べ参加人数、200 名以上
	アウトカム
	・ 六甲山系の森林資源の活用促進及び価値向上 ・ 地域の森林空間価値創造に貢献する人材の育成
プロジェクトチーム	神戸芸術工科大学（リーダー）、神戸大学、神戸市

9. 神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	
概要	市内の介護福祉施設における人材不足解消のため、海外の看護系大学や専門学校等と連携し、神戸の介護分野での就業意欲が高い外国人学生を市内の大学で受け入れるプロジェクトである。日本語学習や介護実習などの教育に加え、在留資格「特定技能1号」の取得を支援し、市内介護福祉施設での就労を促進する。 就労後の定着支援として、「神戸国際高度人材サポートセンター」を立ち上げ、生活相談、地域社会との交流促進、介護福祉士資格取得に向けた教育等を提供し、長期的な就労を支援する。 なお、本プロジェクトに対する神戸市からの財政的支援は 2024 年度から 2026 年度までの 3 年間であり、その後は自走化を目指す。 【2024 年度実績】 ・外国人介護人材の受入: 第 1 期生 8 名が就労開始、第 2 期生 24 名が特定技能試験合格（目標：40 名）。 ・海外協定機関の確保: 6 か国 11 機関と協定締結（目標：3 か国 4 機関）。 ・企業会員の募集: 12 法人が入会（目標：20～30 施設）。 ・介護分野以外への横展開: 産官学連携による研究ワーキンググループ発足。
2025 年度 実施内容	2024 年度は海外協定機関の確保や外国人材の受入において概ね目標を達成し、順調に進捗している。2025 年度は、専門性と意欲のある外国人材の安定的確保と受入事業所のさらなる拡大を目指し、下記事項に取り組んでいく。 1. より優秀な人材確保に向けた連携教育機関の多様化などの取組みの強化 ・志願者増に向けた協力教育機関連携へのアプローチ、ウズベキスタンなど新たな連携教育機関の拡充 2. 訪日前日本語教育の充実、受け入れ環境の整備による合格率の向上 ・住居の確保など、生活面でのサポートの充実 3. 受け入れ施設（就労施設）の拡大 ・外国人材の受け入れメリット、本プロジェクトの他制度に対する優位性等を具体的に提示 4. マッチング業務の効率化と質の向上 ・マッチング業務のフローを明確化し、各段階における担当者、責任、期限などを明らかにする。 5. 受け入れ施設等へのフォローアップ ・外国人雇用に関する最新情報やノウハウを提供 6. 施設に雇用後の外国人材のキャリアアップ、相談体制、地域社会との共生などのフォローアップ 7. 提携の海外教育機関等での日本語教育体制、人材選考方法等へのスクリーニング

	8. 自走に向けた事業体制の検討（中長期的な課題） 9. 介護以外の分野の本スキームの可能性の研究（中長期的な課題）
2025 年度 K P I	・受け入れ人数: 70 名以上（春入学 35 名以上、秋入学 35 名以上） ・特定技能 1 号（介護）取得: 66 名以上（95%） ・市内就職: 66 名以上（95%） ・海外協定機関数: 4 か国 6 機関（現状 6 か国 11 機関）を維持しつつ、新規国の追加（ウズベキスタン等） ・受け入れ施設数（企業会員数）: 50 施設以上（春入生 40 名枠、秋入生 40 名枠を確保） ※留学生が希望する就労先を選択できる環境を整備
プロジェクトチーム	神戸国際大学（リーダー）、神戸松蔭女子学院大学、関西国際大学、J I C A 関西、社会福祉法人報恩会、神戸市

10. リカレント（リ・スキリング）プロジェクト	
概要	文部科学省の「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に 2023 年度、2024 年度と 2 か年連続で採択を受けている。2024 年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」補助金の継続採択を目指す。採択後に事業を実施していく。
2025 年度 実施内容	- 教育プログラムの開発と実施 - 企業の成長に直結する実践的な教育プログラムを産学協働体制で開発 - 産業界や企業の高度かつ具体的なニーズに的確に対応 - リカレント教育に関与する場合の教員のインセンティブ措置 参画大学と連携し、リカレント教育事業実施委員会で教員へのインセンティブ措置を具体的に検討する。 - 成果の普及啓発 本事業の成果をウェブサイト等で事業成果を発信するだけでなく、企業参加者からのフィードバック収集や成功事例の共有を行い、継続的なプログラム改善とさらなる参加促進を目指す。 - 持続可能な運営に向けた体制の強化 - 常勤の専門担当職員の配置 - リカレント教育の継続的な実施に必要な専門性を持つスタッフの確保 - 産業界の知見とニーズを反映するコーディネーターの配置 - 長期的かつ安定的な事業運営モデルの確立 - 財政的自立性の検討 - 修了者支援 - プログラム修了者へのデジタルバッジ発行 など - リカレント教育事業実施委員会 3 か月に 1 回程度の頻度で開催。地域ニーズの分析、プログラム内容の検討、評価方法の策定等を行い、教員のインセンティブ措置についても検討する。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・プログラム数 10 以上 ・参加者数 300 名以上 内訳） 経営者向け 100 名以上 企業社員向け 200 名以上
	アウトカム
	- 教育プログラムの整備と産学官連携の強化 ・産業界のニーズを反映した実践的な教育プログラムの開発 ・大学と企業の連携による教育の質的向上 - 社会人の学び直しの促進 ・リカレント教育の重要性の社会的認知度向上

	・ 個人のスキル向上と職務能力の開発 3. 地域社会への貢献 ・ 地域課題の解決に向けた教育プログラムの実施 ・ 地域社会の持続的な発展への寄与
プロジェクトチーム	神戸市（リーダー）、神戸大学、神戸学院大学、甲南大学、兵庫県立大学、神戸市外国語大学、関西国際大学、神戸市看護大学、神戸商工会議所、兵庫県中小企業家同友会、株式会社 神戸新聞社、西日本電信電話 株式会社、三井住友信託銀行 株式会社、株式会社 みなと銀行、兵庫県

11. 神戸の未来に向けた大学創生プロジェクト	
概要	神戸エリアでは、国公立大学のみならず、独自の建学の精神と教育理念に基づいて高等教育を提供し、社会に貢献してきた私立大学も多く立地し、地域社会をけん引する多くの人材を育成し、輩出してきた。 急激な少子化の加速とともに、指数関数的な技術進化、グローバル化など多くの課題を抱える地域社会の持続可能な発展に向け、域内の高等教育機関である大学の研究、教育、施設などの活用を通じた地域貢献のさらなる促進は必須である。とりわけ、独自性と多様性を持った教育、研究を展開する各大学が地域社会にその成果を還元し、貢献すべきとの共通認識のもと、時代変化と地域社会のニーズを踏まえた魅力ある大学づくりに向け、大学教職員の意識啓発や地元産業界との対話、交流、産官学連携に取り組んでいく。
2025 年度 実施内容	1. 大学職員向け等の研修 大学職員からの研修ニーズの高いテーマ（例えば高大接続、産学連携、生成 AI の活用を含む大学の DX 推進など）を中心に、6 月頃～年末にかけて、若手から幹部まで幅広く、多くの大学職員がアラカルトで受講可能な形でのテーマ型の研修（10 回程度）を実施予定、受講後にできるだけ対話、懇談の場を持てるように工夫、また、産官学連携による参画大学等のブランド力向上にむけたワークショップ形式の研修も併せて実施する。 2. 地域経済界を中心に企業と大学等との対話・交流 神戸の地域経済が抱える課題やニーズをテーマにした参画大学等や企業を中心に、参画大学等が様々な形で対話、交流する取組みを実施する。 3. その他 神戸の未来創生にもつながる、企業等からの提案による参画大学等との連携、共創の取組み（例えば、企業発案テーマに基づく参画大学ゼミによる PBL 型授業など）を促進していく。
2025 年度 KPI	アウトプット
	・ 5 大学、延べ 100 名以上の参加 ・ 参加者満足度 80%以上 ・ 企業との連携事業を 3 つ以上
	アウトカム
	・ 大学の発展を担う大学職員人材の発掘、育成 ・ 各大学のブランド力向上 ・ 産官学連携の促進
プロジェクトチーム	神戸市（リーダー）、神戸学院大学、甲南大学、神戸常盤大学

⑤収支予算

2025 年度 予算

(単位：千円)

区分	当年度予算	前年度予算	前年計画差	備考
収入				
会費収入（神戸市）	37,500	37,500	0	
会費収入（大学）	36,600	29,740	6,860	
会費収入（企業等）	4,450	2,200	2,250	
事業収入	109,708	106,496	3,212	
雑収入	0	0	0	
戻入金				
当期収入計	188,258	175,936	12,322 (a)	
前期繰越金	65,418	16,454	48,964 (b)	
計	253,676	192,390		

支出	事業費	事業収入（再掲）	PF財源	事業費	事業収入（再掲）	PF財源		
プロジェクト								
大学カリキュラムとインターンシップ・就職活動との接続	22,500	13,500	9,000	5,000	0	5,000	17,500	
大学の若手研究者ショートプレゼン&交流会 ～KOBEOアカデミックトーク～	2,500	0	2,500	1,000	0	1,000	1,500	
県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期インターンシッププロジェクト	2,000	0	2,000	2,000	0	2,000	0	
大学都市KOBEO SDGs Challenge Project	3,125	125	3,000	2,000	0	2,000	1,125	
企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災	1,300	200	1,100	700	200	500	600	
大学発イノベーションファンド神戸	1,000	0	1,000	12,000	10,000	2,000	△11,000	
高校1年生のための文理探求支援プロジェクト	1,600	0	1,600	0	0	0	1,600	
神戸市の森林・里山・田園空間で発生する二次林（環境整備材）利活用のための基盤づくり	2,950	0	2,950	0	0	0	2,950	
神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト	51,000	50,000	1,000	85,550	83,000	2,550	△34,550	
リカレント教育プロジェクト	39,500	39,500	0	12,000	12,000	0	27,500	
神戸エリアの未来創生に向けた大学（SD+PRなど）	2,700	2,700	0	0	0	0	2,700	
プロジェクト雑費(共通)	850	0	850	250	0	250	600	
…終了プロジェクト								
地域と若手人材の接続：若手人材に対する地域キャリアの創出	0	0	0	2,000	0	2,000	△2,000	
多文化共生日本語教育都市KOBEO形成プロジェクト	0	0	0	450	0	450	△450	
大学エコシステムによるSDGs 事業共創イニシアティブ	0	0	0	2,000	0	2,000	△2,000	
灘の酒プロジェクト	0	0	0	1,546	546	1,000	△1,546	
高齢社会を支える医療・介護事業の経営持続性と発展性を担う人材の育成	0	0	0	3,750	750	3,000	△3,750	
産官学連携による外国人向けDXアプリサービスの開発	0	0	0	500	0	500	△500	
大学・学生と企業スポーツの連携プロジェクト	0	0	0	250	0	250	0	
連携コーディネーター	0	0	0	500	0	500	△500	
事業予算計	131,025	106,025	25,000	131,496	106,496	25,000	△471	
法人運営費	20,493	0	20,493	15,854	0	15,854	4,639	
拠点管理運営費	32,898	0	32,898	32,192	0	32,192	706	
管理・共通運営費等計	53,391	0	53,391	48,046	0	48,046		
受託事業	424	3,683	-3,259	0	0	0		
予備費	3,400	0	3,400					
その他計	3,824	3,683	141	0	0	0		
当期支出計	188,240	109,708	78,532	179,542		73,046	8,698 (c)	
当期収支差額	18		18	-3,606		-3,606	3,624 (a) - (c)	
次期繰越金	65,436		65,436	12,848		12,848	52,588 (a) + (b) - (c)	
計	253,676		143,968	192,390		85,894		